

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370203030		
法人名	有限会社ほほえみ		
事業所名	グループホームほほえみの家		
所在地	岡山県倉敷市下庄457-1		
自己評価作成日	平成21年11月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo-kouhyou.pref.okayama.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3370203030&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド		
所在地	岡山県岡山市北区駅元町1-6 岡山フコク生命駅前ビル		
訪問調査日	平成21年12月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「個人を尊重しその人らしく生活できるように援助する」を理念に、入居者様の意思を尊重し、その方一人ひとりのペースに合わせながら自分らしく、自分の持っている力を発揮して頂けるように、個々に対応して。全職員が笑顔で挨拶できるように又言葉遣いや態度など接遇に関しての教育を行い、心のあるサービス向上に努めています。毎月、1回音楽療法をしている。音楽の先生と共に、歌を唄ったり、リズム体操や楽器を使って演奏などを行っている。毎週1回はアニマルセラピーを取り入れて、二匹の可愛いワンちゃんと生活している。毎月1回外出行事を企画して、外食やピクニック、買い物などに出掛けしている。隣にえんさこ医院があり、いつでも24時間対応可能である。入居者様の心身の変化や異常発生時に気軽に相談でき、日常の異変に素早く対応できる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

入居者は、得意なピアノを弾いて皆で歌を歌ったり、職員と一緒に調理場に立ったり、得意な手芸を楽しんだりと、1人ひとりが持てる力を発揮しながら生活している。毎月1回の音楽療法は、暮らしの中にリズムを生み、活気や笑顔が多く見られるようになってきている。アニマルセラピーも、心を穏やかにさせる効果が得られているとのことである。毎月1回の外出は、入居者の楽しみごとの一つとなっている。生活の仕方、食べたい物、行きたい所など入居者の希望を取り入れながら、日々の生活を支援している。職員の接遇教育が良くできており、言葉づかい、笑顔での対応など入居者・家族からも好感が持たれている。職員の研修の機会も多く、サービスの向上のために前向きに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼時に、職員がクレド(使命、モットー、患者様、利用者様へのお約束)を唱和して日々の介護に落とし込んでいる。	職員は、毎日朝礼でクレド(使命、モットー、患者様、利用者様へのお約束)を唱和している。名札の裏側にも記入し、常に確認できるようにしている。職員1人ひとりが、毎回職場に入る前にその日の目標を決め、自己評価をするなど、サービスの向上に向け取り組んでいる。	非常に士気の上がる実践をしていると感じた。今後も、継続していかれることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	庄学区民運動会、庄ふれあい祭り、公民館の文化祭に出掛け、地域の方との交流を行っている。	地域で開催される行事には、入居者も出かけている。ふれあい祭りにはボランティアで参加し、地域の一員として積極的に交流を図っている。今年は、射的とネイルアートの場を設け、子どもたちにも喜ばれたとのことである。	グループホーム周辺に民家が少ないため、今後も地域の様々な行事に積極的に出かける機会を作っていただき、交流が継続できたらいいと思います。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	隣設している医院に「ほほえみの家だより」の新聞を掲示し、少しでも多くの方々に当事業所を知って頂き、相互に関係が図れる様に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括支援センター、民生委員、ご家族様、入居者様、管理者等が出席し2ヶ月に1回、実施している。ご家族様の意見も多くあり、サービスの向上に活かしている。	運営推進会議には入居者や家族にも順番に参加してもらい、意見や要望を聴いてサービスの向上に活かしている。具体的な要望が出た時には、可能な限り沿えるように検討し、改善が図られている。	今後も定期的な開催を継続されることを期待します。できれば地域住民にも参加をお願いしてみられたらと思います。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	当事業所だけではなく、困ったことがあれば市の方に相談している。運営推進会議の機会に地域包括支援センターの職員へ日頃の暮らしぶりの様子などを伝えている。今後も積極的な助言を頂きたい。	運営推進会議に、地域包括支援センター職員に参加していただき入居者の暮らしぶりを伝えている。市の窓口では介護に関する書類上のことなどを相談したりし、コミュニケーションを図るようにしている。	市町村との連携で、認知症の介護について地域住民を対象に勉強会を開催したり、相談日を設けるなどの機会ができればいいと考えます。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロのハンドブックを解読し、職員の意識を高めている。正面玄関は鍵をかけた対応をしている。各居室の窓や裏口の出入り口に、防犯ベルを設置している。	玄関は施錠しない等、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。ベッドから転落の危険がある場合にベッド柵を付けたり、掻痒感があつて体を掻いてしまう方に夜間ミトンを付けるなどやむを得ない場合には、家族に説明し同意を得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法に関する理解を持って、日々業務にあたっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	院内研修会を開き職員の理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明等を詳しくお話をし、同意を得られるように説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置している。また年に1回、家族会の際にアンケートをとっている。運営推進会議やご家族様の面会時にも要望などを聞いている。入居者様からの要望は日常の会話から拾い上げている。	運営推進会議で入居者や家族の意見や要望を聴き出すようにしている。入居者に対しては、日常の会話の中から把握するようにしている。家族には、面会時の声かけ、意見箱の設置、家族アンケートの実施など、意見を出せる機会を設けている。	運営推進会議には、順に全家族に参加していただけるよう配慮している。家族が世話になっているという立場を超えて、忌憚のない意見が出しあえるようになれば良いと考えます。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1年に1回職員の個人面談をして、意見を聞き入れている。また日頃よりコミュニケーションを図り、お互いが何でも言いやすい関係を築くように努めている。	毎月1回、カンファレンス、ミーティングを開催し、職員の意見を聴く機会を設けている。職員が、意見を出しやすい環境でもある。個人面談の後には、職員から代表者に報告や要望等も文書で提出し、それに対し代表者からフィードバックもされている。	職員同士のコミュニケーションが図られていることが、入居者の安心の生活につながると考えます。このよい状態が今後も続くことを期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設長は毎朝の申し送りやカンファレンスに参加している。職員の現場の状況や変化なども把握している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は必ず1年に1回、全職員は受講している。研修内容は文章にまとめ、スタッフ全員に回覧している。院内研修は一人でも多くの職員が受講できるように勤務人数に配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症介護実践研修等に参加し、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様とは事前面談をして生活状況の把握をしている。また困っていることや不安なことに寄り添い、小さな事でも真剣にお聞きし、安心して頂けるように、コミュニケーションを密にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様のお話により、しっかり耳を傾け、その気持ちを受け止めながら、一つ一つ解決していけるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当事業所で出来ることは可能な限り、対応させて頂いている。また必要に応じて他のサービス機関につなげる等の対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	全職員は入居者様は人生の大先輩であるという考えを持ち、常に感謝の気持ちを忘れず、「ありがとう」の言葉を伝えるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、ゆっくりお話ができるように、居室へご案内しお茶をお出しする等の配慮をしている。また入居者様の日常生活や健康状態の報告をさせて頂き、記録にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までに行かれていた美容院へ行ったり、墓参りや仏壇参りをされている。また近所の友人、知人が遊びに来られた際は、お部屋でお茶を飲みながらゆっくり過ごされている。	自宅の様子や墓参りなど、入居者が気にしていることがあれば家族に伝え、協力を得ている。連休やお盆などには外泊して家族と過ごすような時間も持てるよう支援している。馴染みの方の訪問も混乱を招かない範囲で支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	カルタ取り、坊主めぐり、パズル、体操等、職員と一緒にみんなで楽しく過ごす時間を、レク活動に取り入れている。入居者様同士トラブルがないように職員が間に入り対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了された場合は、必要に応じて情報提供書やこれまでの経緯やケアの対応などを伝え、連携をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様からの要望の聞き取りを行っている。また意思疎通の困難な方は表情やしぐさ等で読み取り、相手の気持ちになって考え対応している。	日ごろの会話の中から、入居者の思いや意向を把握できるよう、働きかけている。食べ物や買いたい物の希望が多く、献立に取り入れれたり、一緒に買い物に出かけたりしている。家族に会いたいという要望があれば連絡をして調整している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しつつ、これまでの暮らしぶりをお尋ねしている。最初から、言われない方もいらつしゃるので少しずつ馴染みの関係を築きながら、慎重に問いかけをしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの得意分野が発揮できるように、職員と一緒に勤めている。洗濯たみ、食器、お盆拭き、ゴミ捨て、新聞とり、花の水遣り、食事の準備、盛り付けなど、見守り、手助けをさりげなく行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月1回カンファレンスを行っている。訪問看護師、施設長と共に意見交換をしながら、ケアプランの見直しをしている。ご本人様やご家様の要望もお聞きしケアプランに入れている。	月ごとの担当制をとっている。毎月1回、カンファレンスを開催し、入居者全員のケアのあり方について検討している。カンファレンスには職員全員が参加し活発に意見交換している。プラン見直し時には、入居者や家族の要望も聴いている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に入居者様の身体状況や観察、気づき等を記録している。また重要申し送りノートや医療ノートを活用し、職員間での情報を共有している。ケアプランの評価や総合評価も行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急時は、必要に応じて、病院の受診をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センターの職員、民生委員の方の活発な意見により地域の情報交換が出来るように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までのかかりつけ医で行っている。ご本人様、ご家族様の希望があればその病院へも受診している。訪問歯科も対応できるように支援している。	入居者や家族の要望を聞きながら受診先を決めている。今までのかかりつけ医に受診している方もいる。えんさこ医院への通院は職員が送迎し、他院の場合には家族の協力も得ている。えんさこ医院では、24時間対応してもらえる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションとの契約を行い24時間対応し助言や相談ができる関係である。職場内には、看護職員を配置して日頃の健康管理と医療面での早期発見に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合は、医療機関に情報提供書をお渡し情報を伝える。入院中は、ご家族様や医療機関との連絡をとり情報交換をしながら退院時の支援を行っている。またお見舞いをしてご本人様の状況を把握するようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人様とご家族様の意向を確認しながら、院長、看護師、職員との連携を密にしなが、安心して最期を迎えられるように取り組んでいる。その都度、家族に連絡をして確認をしながら支援している。	開所以来、3名の看取りを行い、現在もターミナル期の方が1名おられる。入居時や変化のあった時には、家族の意向を確認しながら、必要な支援をしている。職員も、入居者や家族の希望があれば叶えてあげたいという気持ちが強く、勉強会を開催したり訪問看護師に教わりながら取り組んでいる。	すでに取り組みがあり、可能な限り家族の希望が叶えられている。今後、グループホームで看取りを希望されるケースが少しずつ増えてくるように思えるので、今後も折に触れ早い時期から本人・家族の気持ちを確認しておかれることを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成して周知徹底している。AEDの勉強会も行った。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行っている。通報訓練や初期消火訓練も自主的に行い、入居者様と安全な場所に避難させる訓練をしている。	年2回、避難訓練を行っている。毎回出火場所を変えて設定し、入居者も参加して安全な場所まで避難させている。来年度初めには、スプリンクラーが設置される予定である。	運営推進会議に近隣住民にも参加してもらうなどで、協力体制を作っておかれることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入社時に個人情報保護の守秘義務の誓約書を交わし管理体制をとっている。常にご本人様の気持ちを大切に、さりげないケアを心がけている。	入居者の望んでいることは否定せずに受け入れる、個人の記録類は他者の目に触れないようにする、入居者に関する情報交換は他者に聞こえないところである、排泄に関する言葉は他者に気づかれない表現に変える等の取り組みをしている。	一人ひとりが、できることに取り組めるよう支援している。年々、機能の低下や重度化が進むと思うが、今後もこの取り組みによって、入居者の笑顔や生き生きとした様子が見られることを期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの状態に合わせて、自由に選択できるように、いくつか種類を用意して選んで頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に、その方に合わせた対応をし、ご本人様の要望や希望はないか尋ね、取り入れている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の身支度は自分でタンスから衣類を出して好きな服を着て頂いている。。また何種類か用意し選んで頂く。毎日お化粧をして、口紅をつけ、おしゃれを楽しんでいる方もいらっしゃる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むき、もやしのひげとり、お米を研ぐ、盛り付け、料理、おやつ作り等を入居者様と一緒にしている。食事と一緒に同じテーブルで食べている。	入居者の希望を取り入れながら献立をしている。調理の準備、盛り付け、下膳、食器洗いなど、入居者ができることは一緒にしてもらっている。食事は、職員も一緒に、会話を楽しみながら同じ食事を摂っている。外食を楽しむ機会を作っている。	1か月に1回は外出や外食をしており、これを継続していくことは大変と思うが、入居者や家族からも喜ばれているので、続けていかれることを期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後の食事摂取量を把握して記録している。食事が進まないときは、食事の形態を工夫しながらその方に食べやすい物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、洗面所にて口腔ケアを行っている。自分でできない方は声かけを行い介助している。ブラシを使用し舌の手入れも行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排尿パターンに合わせ、定期的にトイレ誘導をしている。紙パンツやパットも個々に応じたものを使用して頂き、見直しを行っている。	入居者一人ひとりの記録簿に、排泄パターンを基本とした支援計画を記入し、時間を見計らってトイレ誘導するなど自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘ぎみの方には、牛乳、ヨーグルト、ヤクルト等の飲み物を勧めたり、水分補給や食べ物に気をつけている。適度に身体を動かす、体操や風船バレー、散歩などの働きかけをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	いつでも入浴できるようにしている。ご本人様の希望をお聞きしながら確認をして入って頂いている。入浴できない方は、足浴器を使用して足のケアを取り入れている。	入居者一人ひとりの希望を聴きながら、間隔や入浴時間に柔軟に対応している。2～3日毎には入浴できるように支援しており、入浴拒否がある場合には、足浴をしたり、日にち・時間を変えて対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一日のリズムが保てるように、ソファや居室で休んで頂く等、個々に合わせた対応をしている。夜間なかなか眠れない方には、温かい飲み物を出したり、お話をし落ち着いて頂けるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の一覧表を作成し、いつでも確認できるようにファイルしている。変更があった時は、その都度、記録して職員に分かるようにしている。薬の効能、副作用等の説明書をファイルに保管している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たたみ、食器拭き、食事の準備、花の水やり、ゴミ捨て等、その方の得意分野を活かせるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎月、お出かけプランを入居者様と一緒に計画している。行きたいところへ行ったり、外食やお弁当を持ってピクニックに行っている。(毎月1回は入居者様全員でバスに乗ってお出かけしている)またご家族様と一緒に外出され、食事をして帰られることもある。	近隣のレストランや、バラ園、後樂園、サンロード吉備地など、全員で出かける機会が多い。周辺を散歩したり、買いたいものがあるばお店にも出かけている。	全員で乗り物に乗って出かける機会はあるが、寒い時期には散歩等は控え気味とのことである。ベランダに出られるようにしているが、日中の温かい時間帯に少しずつでも外気に触れる機会を持たれることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分でお金を管理されている人もいます。ご家族様よりお金を預かり、買い物に行く時は、ご自分で支払って頂けるように手助けをしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	暑中見舞い、年賀状は毎年、入居者様と一緒に書いている。また自分の手作りの折り紙の作品を親族に手紙を添えて送る手助けをしている。ケータイや電話が出来るように手助けしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁画、絵画、季節の生花を飾るなど、生活感を感じて頂けるように気配りをしている。入居者様に馴染みのあるものを生活の中に取り入れている。	共用の空間には季節を感じられるような飾り付けや、入居者の作品が展示されている。新聞、雑誌、ピアノ、パズルなどが置かれ、入居者は思い思いの時間をゆったりと過ごしている。音楽でリズムをとることによって落ち着ける入居者のために、音楽もかけられている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールや正面玄関にソファを設置している。デッキには机や椅子を置いて、いつでも、好きな時間に仲良しのお友達とお話出来るように、環境を整えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使い慣れた物を、持って来て頂いている。家族の写真を貼ったり、アルバムなど置いている。	ベッドとタンスは備え付けられているが、その他の生活用品は馴染みの物が持ち込まれている。手芸用の道具、家族の写真、机、冷蔵庫、テレビ、若い頃の海外旅行の写真など、どの入居者の部屋も安心して過ごせる場所の工夫がみられる。	入居者の好みや生活ぶりが分かる居室環境である。今後も本人・家族と相談しながら居心地の良い環境づくりを進めていかれることを期待します。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール、トイレ、風呂場の手すりは身体状況に合わせて手すりを設置している。正面玄関や西裏口をスロープにし、入居者様が移動しやすいように、安全に配慮している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370203030		
法人名	有限会社 ほほえみ		
事業所名	グループホーム ほほえみの家		
所在地	岡山県倉敷市下庄457-1		
自己評価作成日	平成21年11月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo-kouhyou.pref.okayama.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3370203030&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド		
所在地	岡山県岡山市北区駅元町1-6 岡山フコク生命駅前ビル		
訪問調査日	平成21年12月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様の認知症を穏やかに保ち、心身共に安定し、幸福な生活が送れるよう支援すること目的としています。テラスや窓から見える景色は四季の移り変わる美しい景色が見え、ホームの周りは田んぼに囲まれ自然がいっぱいで、安全に外気欲や散歩ができる環境である。職員と入居者様との会話に笑顔が多く、和やかでやさしい雰囲気です。質のサービス向上を目指し、職員全員で研修会や勉強会に参加して取り組んでいます。また、24時間医師との連携が取れているので、安心して生活していただけます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に愛されるグループホームを目指し、地域の人々との関係づくりに取り組んでいる。「個人を尊重し、その人らしく生活できるように援助する」を理念として、支援している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の運動会や文化祭やバザーなどに参加し地域の人々と交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	月1回のホームページ作成にて地域の方にグループホームの様子について掲載している。ほほえみたよりの新聞も作成し、外部の方にも見ていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回定期的に開催している。家族の方もほとんど参加していただき、貴重な意見や要望を聞くことができている。質の向上に努めています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議にて包括支援センターの方が毎回参加して下さり、意見交換を行ってアドバイスをいただいています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修を行い、職員全員が研修の報告を行い、身体拘束のないケアに取り組んでいる。職員一人一人が常に意識できるようにしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加したり、勉強会などを行い、言葉による虐待等もないようにし、入居者の方が安全に生活していただけるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加したり、包括支援センターの方にその都度お聞きし、学ぶ機会を作っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者様、ご家族様が理解・納得できる様十分時間を取り、説明をしています。また、不安や疑問点などがないか、こちらからお聞きするようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で家族の方と包括支援センターの方や民生委員の方とお話する機会がありますのでこれからもこの場を大切にしていきたい。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホームの玄関先などにご意見箱を設置しています。ご要望がありましたら書いていただくようにしています。苦情が出た際には早急に解決し、対応させていただいています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ホーム行事や受診や外出行事などにあわせ、勤務体制を整えるようにし、安全に仕事が行えるようにしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	院内研修に参加していただいたり、社外研修に職員全員が1年に1回は参加していただいている。研修は補助もあり、職員の負担を少なくしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	えんさこ医院グループによる全体での勉強会を行い、各部署の方とコミュニケーションを図りながら、サービスの質の向上を図っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、話し合いを行うとともに、入居者様がグループホームの雰囲気馴染める様に見守りの期間を設け安心して生活していただけるように対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に訪問させていただき、ご家族の希望・不安や困っていることなど、お話を聞く時間を十分にとり、お気持ちを受け止めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際には、状態・状況等お話を聞きし、何を必要としているのか見極め、他のサービスの提案もさせていただきます。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様主体の生活の中、共に活動する時間を大切に、日々の生活の中でも、共に笑い、ご入居者様の話に耳を傾け共感し、支えあう関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の近況状況や、健康状態の変化報告など、面会時はお話をさせていただいています。ホームへの行事には参加を呼びかけ共に楽しむ場を作っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所に住んでいた方の面会など、気軽に足を運んでいただけるようなホームを暖かい雰囲気作りに努めていきたいです。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者様同士で自然に支えあえるように時には職員が間に入り、上手く仲をつなぐようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、ホームに相談などがあれば情報を提供し、家族との関わりをもつようにしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションを図り、入居者様の声に耳を傾け、ご本人の希望の生活ができるよう協力をしています。職員全員が入居者様の立場にたったケアを心掛けています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前に、ご本人様・ご家族様よりお話を聞き、アセスメントシートを作成し、職員が把握できるようにファイルしてあります。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人様の生活状況を個人記録に細かく記入を行い把握できるように行っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様とご家族様の要望をお聞きし、カンファレンス時にケアマネ・看護師・職員との話し合いを行い、計画作成を行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の中での小さな気づきや、ご本人様の言葉など、細かく個人記録などに記載している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	眼科往診や皮膚科受診などご家族が付き添えない時は職員が変わりに対応し、柔軟に対応ができています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議にて民生委員の方と話し合いの中で情報を取り入れている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様・ご家族様の希望するかかりつけの病院に受診をしていただいています。ご家族の方はとても協力的です。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションに来ていただいています。状況変化や対応について気軽に相談でき、連携が取れています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	必要な情報を提供し、病院関係者と連携をとっています。お見舞いに行かせていただいています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に重度化した場合の対応についての方針をお渡しし、説明を行っています。事業所の出来ること出来ないこととお話し、主治医や話し合いの場を設けている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを作成している。院内研修にて勉強会を行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策として、年2回避難訓練をおこなっています。毎年いろんなところからの出火を想定して訓練をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーのマニュアルを作成し、プライバシー確保に努めています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が自己決定しやすい声かけ、希望をいいやすいような環境を作るようにしています。その人にあった声かけを工夫をしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホーム内で一日の流れはありますが、入居者様中心の生活ですので、その方のペースに合わせて支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に整容していただき、着替えの時はどの服が良いか選んでいただいています。2ヶ月に1回移動美容がきてくれています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ご本人様が出来る事、また得意とする事をお手伝いしていただいています。一緒に作っていただいたものを職員も一緒に会話をしながら食べるようにしています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	飲み物の種類を増やし、好きなものを飲んでいただけるようにしています。養命酒や梅酒を管理されている入居者様がおられます。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、口腔ケアの声かけ援助を行っています。義歯のない方も、必ず、うがいをしていただくようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	プライドを傷付けないように声かけ、誘導を行い、気持ちよく排泄ができるように努めています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	軽い運動を行ったり、水分補給を行い、便秘の解消を行っている。食物繊維の入った飲み物を飲んでいただいています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望に応じ入浴支援を行っています。入浴前にご本人に声かけを行い希望の時間等をお聞きし、できるだけ希望に沿えるようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様一人一人の生活リズムを把握し、安心して休息できる支援を行っています。ほとんどの方がよく休まれています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様が飲まれている薬の表を作り、職員がいつでも確認出来るように各ユニットにおいてあります。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事・掃除・洗濯物たたみ・水遣りなどその方にあった、家庭的な活動を支援しています。ご本人の得意とすることや趣味など活躍できる場を見つけ、日々楽しく過ごせるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物に出かけたり、天気の良い日は散歩や外気欲を行います。面会時や手紙などでご家族様と連絡を取り、外出する楽しみを支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分でお金の管理が出来る方はお任せしてしています。お小遣いを残高が少なくなると家族の面会時にお小遣い手帳を確認していただいて請求をしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の使用は、ご本人の希望があれば自由に電話ができるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	大きな物音を立てないように心掛けている。光の調節等も行っています。ホールやキッチンなどには家庭で使用している食器や箸などを使用しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	施設周辺の自然環境が豊かで、窓やテラスからの景色が四季を感じさせてくれる環境となっています。隣のユニットの方とも交流が深めれるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール全体が見渡せるように、ソファを置いて自由に過ごしていただくようにしている。一人一人がくつろげる空間にしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	買い物や外出など入居者の希望により提供している。入居者の意見などその時の天気や入居者様の気分を考慮し、思いや意向を積極的に取り入れられるようにしている。		